小松の持っているネタ

１ 神様は人をどのように導かれるか。

１．こひつじクリニック開設の経緯

（１）みことば

(1)ローマ８：２８

神を愛する人々、すなわち、神のご計画に従って召された人々のためには、神がすべてのことを働かせて益としてくださることを、私たちは知っています。

(2)エレミヤ２９：１１

わたしはあなたがたのために立てている計画をよく知っているからだ。ーー【主】の御告げーーそれはわざわいではなくて、平安を与える計画であり、あなたがたに将来と希望を与えるためのものだ。

(3)ピリピ２：１３

神は、みこころのままに、あなたがたのうちに働いて志を立てさせ、事を行わせてくださるのです。

（２）主の導き

私のこれまでの歩みを振り返ると、いくつかのポイントで神様が介入してこられていました。

(1)イエス様を信じる（１９７６年）

小学５年生の時、明石駅前での路傍伝道で初めて福音に触れた。

(2)医師を目指す。

機械関係、コンピューター関係に進もうと思っていた。
それなのに
父の言葉　「お前は医者になれ。」

(3)高校の選択

正直に言うと、体育の授業のきついところには行きたくなかった。
それなのに
父の言葉　「体育がきついぐらいなんやねん。」

(4)大学卒業後、大学に残らないで徳洲会に入る。（１９９０年）

将来、医療宣教に召されるかもしれない。
　できるだけ何でもみられる医者になりたい。
体だけではなく心や魂にも目の向いた医者

(5)神奈川県から神戸に帰ってくる。（１９９３年）

医師２年目からは、外科医として経験を積んだ。
腕の立つ外科医になりたい。
それなのに
自分のある罪のために神戸に戻ることになった。

神戸徳洲会病院で働いている頃に気付かされたこと。

「ささげる喜び」

＜自己紹介＞
最初に自己紹介をさせていただきます。現在私は教会ではいろいろな奉仕をさせていただいています。役員をさせていただいていますし、教会学校の教師もさせていただいています。教会学校では、ドラムを叩いたり、ギターを弾いたりしています。礼拝の中で、時々液晶プロジェクターで歌詞を映し出すようなこともさせていただいています。聖歌隊のリーダーなどもさせていただいています。まったく下手の横好き状態です。
母、妻、こども３人の６人家族で、みんなで教会に通っています。病院で外科医、救急医として勤めています。

＜劣等感＞
しかし、私は罪人であり、欠けの多い者、誘惑に負けやすい者、人を恐れやすい者です。どの分野にしても自分よりすぐれた人はいくらでもいるし、自分でなければならないという理由はありません。自分には教会で奉仕にあたる資格はないと思ったこともありました。人前に出て能力のなさをさらけだしたくないと思うこともありました。
自分より能力のある人をうらやましく思いました。教会での奉仕にしろ、病院での仕事にしろ、もっとてぎわよく、早く、確実にできればいいのにといつも思います。どうしてもっと能力を下さらないのですかと神様に祈ったりもしました。

＜自分の能力は神様がつくって下さったもの＞
長く、こんな思いを持ち続けていましたが、ある時気付きました。自分をこのようにつくって下さったのは、神様であるということです。自分の能力をつくって下さったのも神様なのだということに気付きました。向上のために努力することは必要なのでしょうが、努力しても自分には限界があります。できることはできる、できないことはできない。人にはできても自分にはできないということはある。あって当り前なのだ。マタイ二五・15～30 を読むと、人によって５タラント、２タラント、１タラントと預けられたお金が違っています。そのように、神様は私たち一人一人を違ったものとしておつくりになり、それぞれに違った能力をお与えになっているのですね。自分の能力が足りないということで神様に愚痴を言うのは、不信仰であって、神様を讃美し、感謝する姿勢ではないと気付かされまし

た。神様はありのままの私を受け入れて下さっています。私も、自分に気に入らないところがあっても、まず、ありのままの自分を受け入れるべきなのだとわかりました。

＜喜んでささげること＞
そのことに気付いてから、少ししか与えられていないと思われても、それを感謝して受けることができるようになりました。足りないと思われても、持っているものをささげればいいとわかりました。ヨハネ６章に５個のパンと２匹の魚をささげた少年の話がありますが、少ないと思われるものでも、喜んでささげるなら、主はそれをお用いになることができるのです。
自分が持っているものは、お金であれ、健康であれ、能力であれ、時間であれ、すべて主が与えて下さったものです。それを感謝をもって、喜びをもって主にお返しすることができれば、と思います。与えられたものをすべて主のために使うことができればすばらしいと思います。
与えられた務め、奉仕、機会を感謝して受けて、誠実に忠実にそれに取り組んでいくことが、神様が私に望んでおられることなのだと思います。第一コリント十・31 にあるように食べるにも、飲むにも、何をするにもそれによって神様の栄光が現されるならすばらしいと思います。
あなたがたのからだを、神に受け入れられる、聖い、生きた供え物としてささげなさい。それこそ、あなたがたの霊的な礼拝です。（ローマ一二・１）

「ささげる喜び」の要点

・私は劣等感で悩んでいた。

・ある時、自分の能力は神様が与えて下さったものだと気づいた。

・できない自分であっても、神様は愛してくださって、受け入れてくださっている。

・そのままの自分を自分自身が受け入れたらいいとわかった。

・少ないと思われるものでも感謝してささげるなら、主はそれを用いてくださる。それによって主の栄光があらわされる。

(6)外科から救急へ

外科にいる間に手術の全身麻酔もたくさんかけて、麻酔科標榜医の資格をとった。
神戸徳洲会病院で外科医として、ずっとやっていけるものと思っていた。
それなのに
ある手術がうまくいかなかったことがひとつのきっかけで外科医から救急医に重心が移った。

(7)徳洲会をやめる。（２０１２年３月）

このまま働いて、神戸徳洲会病院に骨をうずめるのだろうと思っていた。
それなのに
がんばっている看護師さん方との出会いにより、目が開かれた。

現状維持モードで働いていた。
自分のタラントを使い切っていない。

看護師さん方のように前向き、上向きに生きていこう。
現状維持モードから前向き、上向きモードへ

誰にでもできる仕事は人に任せて、自分にしかできない仕事を探したい。
体だけではなく心や魂に目の向いた医者

緩和ケア
開業を視野に
尼崎医療生協病院　緩和ケア科に勤めることになった。

(8)尼崎医療生協病院　緩和ケア科でのできごと

(a) Ｓさんとの出会い（２０１２年５月）

がん末期の７０代女性
山梨県までの１泊２日の旅行に同行した。（さくらんぼ狩り）
感動的な旅行だった。

(b) Ｆさんとの出会い（２０１２年９月）

がん末期の７０代女性
将来を悲観して、病室で自殺未遂
何度かお話をしているうちに、イエス様を信じられた。

(9)尼崎医療生協病院をやめる。（２０１３年３月）

２年ぐらいここで勉強させてもらおうと思っていた。
それなのに
Ｆさんのことがきっかけで１年でやめて、全国のホスピスを回って、勉強してみたいと思うようになった。

さすらいの緩和ケア医へ

(10) こひつじクリニックのアイデアが与えられる。（２０１３年５月）

全国介護タクシー協会のラジオ番組
「夢旅行～介護タクシーがかなえます～」
介護が必要な方でも、介護タクシーを利用すれば旅行ができる。
医療が必要な方でも、医者が同行すれば、旅行ができる。
患者さまの旅行に同行して、あきらめていた旅行を実現することを、自分の仕事にしようとの思いが与えられた。

これこそ、自分にしかできない仕事

こひつじクリニックを始めることに迷いはなかった。

これこそ御心と確信できたから。
待つことにはメリットがない。

(11) ２０１３年８月１日　こひつじクリニック開設

患者さまの旅行に同行することを専門とするクリニックとして。
日本初のクリニック。
サービスとして、一般の人になかなか知ってもらえず、旅行同行の依頼は少なかった。
旅行のない時には、アルバイトをして職員の給料を払っていた。
次第に蓄えがつきてきたので、普通の開業医のように地域の患者の診療も始めることにした。

(12) ２０１５年１月、尼崎から猪名川町若葉に移転し、在宅医療を中心とするクリニックとして再出発

内科、外科、緩和ケア内科を標榜。
在宅ホスピス、在宅みとり
徐々に担当患者数が増えて、経営は安定していった。

(13) ２０１９年１１月、医療法人社団こひつじ　発足、株式会社アグヌス　発足

(14) ２０２０年２月、猪名川町若葉から猪名川町広根に移転

良い物件が与えられたので、在宅医療だけではなく、外来診療にも力を入れるようにした。

(15) 今後の展望

全国の教会に案内
全国の教会を拠点とした働き
教会を中心とした愛のわざ
教会が地域を支える働き
　超高齢社会、多死社会

２．主の計画・導きについて教えられたこと

（１）自分のこれまでの歩みを振り返って感じること

私の歩みをふりかえると、挫折の連続ととらえることもできる。
不平、不満を常に訴えながら生きるという選択もありえた。
しかし、「主のなさることは常に最善である。」という信仰が与えられていた。
この信仰があったからこそ、ここまでやってこれた。
自分の歩みが、主の計画、主の導きによるものだったとわかって、主のみわざに驚嘆した。
私のこれまでのすべての歩みが、こひつじクリニックのために必要だった。

主のなさることには、無駄がない。調和がとれている。
導きは絶妙なタイミング、絶妙な順序で起こる。

（２）神様は私たち一人ひとりにそれぞれ素晴らしい計画を持っておられる。祝福したいと強く望んでおられる。

ナスカの地上絵は、地上にいたら何が書かれているのかわからないが、高いところから見たら調和のとれた絵になっている。
同様に人生の中のできごとには、その時には何の意味があるのかわからない。
人には将来のことはわからない。
確かに主は愛の計画を持って、私たちを導き、美しい絵を描かせたいと思っておられる。
不信仰で従えないこともある。失敗してしまうこともある。
でも、主はそれさえも用いて、美しい絵を描かれる。
私たちをデザインして下さった方は、私たちの人生をも素晴らしくデザインして下さる。

（３）主はどのように私たちを導かれるか

人から
　人との出会い、人からの言葉
　牧師、兄弟姉妹、家族、その他
　上司、会社からの命令
本との出会い
ラジオ番組との出会い

社会から
　社会の変化
できごとから
　できごと、事故、病気、災害
自分の失敗、罪

ビジョン

（４）「導き」にどう応じるか

まっすぐ歩いていくつもりだったのに、急に方向転換に導かれることがある。
単純に信じて従えばいい。
自分の思い、計画に固執しない。

受動的な変化
　受動的な変化であったとしても主を信頼して能動的に受け入れなおす。「主のなさることは常に最善である。」
　ビジョンを作る。求める。

能動的な変化
　自分の例では、特にビジョンを意識せず日々のつとめを果たしていたことも多かった。
　もしビジョンがあるなら、それに従い思いを変える。行動を変える。

何か導きがあったら、大胆に進んでいったらいい。
失敗を恐れる必要はない。
主は私たちの失敗をも私たちの罪でさえも益に変えてくださるから。
ご計画からそれている道を進んでいたとしても、主が教えてくださって軌道修正に導かれる。カーナビのように。

一歩ずつ主が備えてくださっている道を歩いていく。

その場にとどまることが御心であれば
与えられた務め、奉仕、機会を感謝して受けて、喜びをもって、誠実に忠実にそれに取り組んでいくことが、神様が私たちに望んでおられること

律法的にならずに
ノルマではなく
自発的に、自由な意志によって
無理はし過ぎない方がいいかも。

（5）ビジョンについて

神は、みこころのままに、あなたがたのうちに働いて志を立てさせ、事を行わせてくださるのです。
ビジョンがある方が行動が直接的になりやすい。焦点がしぼられやすい。
ビジョンとは将来に関するもの
現在の行動、明日の行動を決めるもの、導くもの

様々なビジョン
主から唐突に与えられるビジョン
医療が必要な人でも医師が同行すれば旅行ができる。
理性、知性を介して与えられるビジョン
どんな仕事に召されるかわからないからできるだけ全身をみられる医者になりたい。
動機が大切。

漠然としたビジョン
具体的なビジョン

主から与えられるビジョン
自分の思いの中から出てくるビジョン

短期のビジョン
長期のビジョン

個人に与えられるビジョン
グループに与えられるビジョン

ビジョンは一般的な意味での夢とは違う。
主からのもの。主のためのもの。自分の望みや願いではない。

（6）「主の計画」、「導き」の目的

主の計画の目的は平安、将来、希望を与えること。
人間は誰しも発展途上。人間が作るすべてのグループも発展途上。完全なものはない。
人間としての（グループとしての）成長、信仰の成長、愛における成長
主に似た形に変えられていく。
主の栄光があらわされる
　個人に対して
　家庭に対して
　教会に対して
　地域社会に対して
　国に対して
　全人類に対して

３．まとめ

私が今までに経験してきた主の導きについて、証をさせていただきました。
主は、私を愛してくださっていて、素晴らしい計画をもっておられます。
そして、いろいろな手段、方法によって私を導いてこられました。
主に心からの感謝と賛美をささげます。

２ クリスチャン経営者として考えていること

患者や職員に対する伝道

上下関係のある時には１対１では、原則として伝道しない。

１対多の時や１対不特定多数の時は積極的にしていいと思っている。

　ブログ

クリスチャンとしてどのようにマネージするか

クリスチャンの経営者と言っても、人が違えば、性格、価値観、人との接し方、行動のパターンはみんな違う。

個性の尊重
　みんな違ってみんないい
自由の尊重
自主性の尊重
失敗を責めない。
　システムの改善につなげていく。
　医療安全の基本かも知れないが
相性についての配慮

働きやすい職場を目指している。
　できるだけ職員からの希望、要望にはこたえるようにしている。
　体調が悪い時には無理せず休める。
　家庭や家族を大切にしてほしい。
　　家族のイベントがあったりするなら、それを大切にしてほしい。
　ギリギリの人数で回すのではなく、少し人員に余裕がある状態を目指している。
風通しのいい職場を目指している。
　何を言ってもいい。
　まずは先入観を持たずに、職員の言うことをじっくり傾聴することが大事と思っている。

3 患者様が自分の人生の主人公となる医療とは

＜はじめに＞

　一般に、人は誰でも自分の人生の主人公だと考えられます。しかし、医療の世界では必ずしもそうではありません。むしろ、重い病気や障がいを持つ方にとっては、自分の人生の主人公になることはかなり難しいことです。その原因や対策について考察しました。

＜患者が自分の人生の主人公になれない原因＞

　以下のような各種の原因が考えられます。

(1) 物理的な要因

　家の中も町の中もあまりバリアフリーになっていない。移動の自由が妨げられていることが多いんです。動きたい時に動けない。行きたいのに行けないということになりがちです。家の中のちょっとした移動でさえ難しくなる場合もあるでしょう。自分の希望がかなえられず、あきらめることを余儀なくされます。あきらめるのが普通、あきらめるのが当たり前という毎日になってしまいます。

(2) 心理的な要因

　病気になったり、障がいを持ったりして「生産的」なことができなくなると、自分には価値がないと思ったりします。生きていても、何の人の役にも立てない。自分は家族や社会のお荷物だと感じて、自分の希望や願いが言えなくなってしまいます。遠慮して、引っ込み思案になってしまって、心が萎縮してしまいます。

(3) 経済的な要因

　自分で稼げなくなると、お金のかかることはできなくなります。ただでさえ、重い病気を持った方の場合、生活する上で普通の人よりも余分にお金がかかってしまうことが多いかも知れません。この先、生きている間どれほどお金が必要かということを思うと、ふだんの出費をできる限り抑えようとするのはやむを得ないことと言えるかも知れません。

(4) 医療スタッフの要因

従来、患者の治療方針は、患者の希望や願いをほとんど聞くこともなく、医師や看護師により決められてきました。医療スタッフ側には、患者が自分の人生の主人公という意識はなく、患者に対して指示や命令しかしません。医療スタッフは、自分たちの価値観や習慣に基づいて意思決定を行うわけですが、それは往々にして患者の価値観や願いに反するものとなります。

二つ例をあげます。

・癌の治療

癌の種類、部位、進行度などによって、最も５年生存率の高い治療法（手術、抗癌剤、放射線治療など）が選択されます。昨今、EBM (evidence based medicine) と言って、治療をする場合にはデータや根拠に基づいて治療法を選択するということが勧められています。以前は医師の経験や直感に頼って治療法が選択されていたわけなので、EBM が推進されるのは悪いことではなく、医療の進歩とも言うことはできます。しかし、患者の希望、願い、価値観ぬきに治療法が選択されるのであれば、やはりそれは問題でしょう。医師から提示された治療法を拒否する権利が患者にはあるのですが、言われるがままに治療を受けてしまう場合が多いと思います。寿命が伸びるというのは一般的には良いことと考えられますが、それと引き換えにつらい副作用に悩まされるようになったり、長期の病院や施設での生活を強いられるようになるのだとしたら、もっと別の選択があるのではないかと思ってしまいます。

・胃瘻

病状の進行や加齢により、食欲が低下したり、嚥下の力が弱ってきたりすると、胃瘻造設が勧められ、経管栄養が始められる場合が多くあります。従来、医療の使命は患者を少しでも長生きさせることと考えられてきました。その医療観にしたがえば、食べられなくなったら、経管栄養をして命が続くようにするというのは当然の選択ということになります。でも実際の医療の現場で、そのような患者を多く見てくると、すべての胃瘻造設が悪いとは言えませんが、多くの場合、それが患者の幸せにつながっているのか疑問ですし、そもそも患者がそれを望んでいなかったのではないかと思われる場合が少なからずあります。

(5) 社会の要因

資本主義社会では、金こそが目的であり、手段であり、評価基準です。金を生み出せない人は、社会から価値のないものとして疎外されます。資本主義的価値観は、あまりに広く、大多数の人植えつけられてしまっているので、患者の家族でさえ、患者に対してそのような思いをいだいてしまいがちです。

＜医師と患者は、人間として対等＞

私は、医学生の頃から医師と患者は対等であると考えていたように思います。医師は、豊富な医学知識を持ち、治療の技術を持っていますから、たしかにその点では患者よりも上でしょう。でも人間として優れているわけではないし、患者が劣っているというわけでもありません。医師は患者さんの人生や価値観に敬意を払い、尊重しなければなりません。医者は、知識や技術を駆使して、患者に仕えるべき存在です。対等なんですから、医師は患者に対して、命令や指示をしたり、束縛することは

できません。医者がするのは、よくわかるように説明をしたり、助言をしたりすることのはずです。助言や説明を聞いたうえで、どのような治療を受けるのか、どのような生き方をするのかは、患者さんが自分で決めるのです。

＜なぜ対等を意識する必要があるのか＞

たいていの患者は、医師に対して遠慮やひどい時には恐れを感じています。特に入院中だったりすると、医者の機嫌をそこねたら、ちゃんと診てもらえなくなるのではないかと心配されることが多いのではないでしょうか。遠慮や恐れがあると、思っていることが言えなくなります。そうなると、患者の正確な状態が医師に伝わりにくくなって、治療が不適切になることもあります。患者の気持ちがわからないと、患者が自分の人生の主人公になることはなおさら難しくなります。

＜どうしたら対等になれる？＞

医者はもともと患者よりも優位な立場にあるのですから、意識的に自分を下げるぐらいでないと、とても、対等な関係にはなれません。

私は自分を下げるためにしていることがいくつかあります。まずは偉そうにしないことですね。姿も姿勢も態度も、意識してあまり医者らしくないようにしています。私は、よく人から医者らしくないと言われるのですが、自分に対するほめことばだと思って、喜んでいます。それから、相手を見下ろすような位置に立つのではなく、同じ目の高さになるように心がけています。できるだけ患者さんに自由に話してもらうようにして、話をさえぎらないようにします。患者さんが何を言っても、「でも」とか「そうは言っても」などの逆接の言葉を使わないようにします。「無理です」とか「ダメです」みたいな否定的な言い方も避けるようにしています。

＜NBM （narrative based medicine　物語に基づく医療）＞

narrative とは、患者の人生の物語のことです。narrative based medicine とは、患者それぞれが持っておられる物語にそって、それに基づいて、治療法を選択し、治療していこうとするものです。先ほど少し EBM について述べましたが、NBM はそれを発展させた概念と考えることができると思います。患者にはそれぞれ違った物語があり、価値観（大切にしているもの）があります。対等な関係の中で、それを十分に語っていただいて、それを最大限に尊重します。医師はその物語のより良い続きが紡がれていくように、医学的知識(evidence) を駆使しながら、患者にいろいろな選択肢を提示し、わかりやすく説明します。その上で患者に治療法を選択していただきます。その後も、患者に寄り添い、物語という視点で治療を修正し、継続していきます。このようにすれば、患者が自分の人生の主人公となる医療に近づいていけるのではないでしょうか。

＜私の考える理想の医療＞

患者さんが自分の人生の主人公であることを医療スタッフが意識して、その人がどんな病気を持っていても、どんな障がいがあっても、その人らしく、生きがい、希望、喜びを持って過ごせるよう治療や援助ができたらいいと思います。

どんな状態であっても、その人が一人の人間として尊重されること。そして、患者が家族など周りの人との関わりの中で、患者も人間として成長できるし、家族も、さらに関わるすべての人も成長できるようであったら素晴らしいですね。療養生活が暗く、つらい、さびしいものから、明るく、積極

的なものになっていったらいいですね。どんな病気や障がいがあっても、人は輝いて生きていくことができるはずのものだと私は思います。

＜結語＞

患者が自分の人生の主人公になることのできる医療について考察しました。
医療スタッフが患者と対等であることを意識して、患者の物語、価値観を十分に聞き取り、それにそった治療を選択していただくことが一つの解決法と考えられます。

４ 分断の時代にクリスチャンとしてどう生きるか

悪魔の採用する作戦、方法は分断させ対立させ争わせること。

それに対抗するためには

違い、多様性を残した状態での融和、協調
いろんな人がいていい。
いろんな宗教があっていい。
オウム真理教のように殺人を正当化するようなものは困るが

みんな違ってみんないい。

自分の価値観、宗教を他の人に強要する時に問題が起こる。
マスク警察

お互いの自由を尊重する。
思想の自由
言論、表現の自由

相手の存在を尊重する。

相手を非難しない。

宗教的な思想、宗教的な価値観（mind control によって植え付けられた思想、価値観）については、論争を行っても、どこまでも平行線となる可能性が高い。
グローバリズムに賛成かどうか
移民優遇に賛成かどうか
old media を信じるかどうか
人身売買、悪魔崇拝の存在を信じるかどうか

一対多での意見表明、問題提起、主張ならいいだろう。

ネット上での発表、街頭演説など。
一対一での議論は、良い結果をもたらさないことが多いだろう。